



# 港の機能を 景観にうまく とりこむ工夫を

博多湾水際ウォッチング—東部

香椎パークポートをはじめとする  
物流基地が並ぶ博多港の東側。  
365日、市民の生活を支えるために  
フル活動している。  
経済性や機能の充実だけでなく  
景観の美しさや自然との共存を  
今後どう実現していくのか、  
人々の期待も大きい。

前の晩の雨が、そのように晴れ上がった晩秋の朝。福岡のまちを海の上から眺めようと5人のメンバーが集まった。九州大学の出口助教、インテリア&色彩コーディネーターの永井さん、設計事務所勤務の長谷川さん、そして福岡大学で建築を専攻する段原さんと川橋さん。それぞれ建築や景観に精通し、福岡のまちづくりに深い関心を持っている。

9:15 まず、「みなと100年公園」の高台から、今から巡る博多湾の全景を一望してみる。緑地帯が広がる公園、トラックが行き交うかもめ大橋、無数のコンテナ群、巨大なガントリークレーン、そして穏やかな海原……。この公

園は海を身近に感じてほしいという思いを込めて整備が進められている。

川橋「きれいな公園ですね、緑も多くて。東部地区では博多湾を望む初めての公園として最初は注目を集めるかもしれませんね、でも1度訪れた人が何度も足を運びたいと思うかしら。もっと人を呼び込む工夫が必要だと思いませんか」

出口「公園周辺の住民にとっては頻繁に訪れたい場所になるはずですよ。もっと開放的に整備し、身近に感じられる公園として機能してほしいですね」

9:30 いよいよ乗船だ。メンバーたちはそれぞれに港の姿を心に刻もうと、少々冷たい海風を我慢しながらテ



海を身近に感じてほしいというコンセプトで整備が進んでいる「みなと100年公園」。



三日月山の緑を背景にガントリークレーンが映える「香椎パークポート」。その北側に「アイランドシティ」が誕生しようとしている。







ツキに立つ。船は陸地からどんどん沖へと進む。途中、海外からやってきた大きなコンテナ船とすれ違った。永井「わあ。こんなに間近で見たの初めて。思った以上に大きいわね。このコンテナに私たちの生活の糧が詰まっているのね」

コンテナ船はゆつくりと香椎パークポートへ向かう。九州で初めてのコンテナ専用ターミナルとして整備された香椎パークポートは、平成10年に博多港で扱った年間36万個の国際コンテナ貨物のうち約25万個を取り扱っている最新鋭の国際物流拠点だ。

9:50 東区雁ノ巣まで行き着いた船はゆつくり旋回し、アイランドシティへ。雁ノ巣からアイランドシティへ架かるという橋の工事途中の脚や埋め立て区域を回って護岸だけしか見ることができず、これから誕生する未来都市の姿はまだ想像することはできなかった。アイランドシティの奥には野鳥飛来地として有名な和白干潟が静かに広がる。視線を上げると緑豊かな三日月山。この地域は貴重な自然をそのまま残しエコパークゾーンとして整備される予定だ。アイランドシティは人と自然が共生するまちとして、今までにな

10:00 香椎パークポートのシンボル、キリンのような姿でたまたむ4基のガントリークレーンが見えてきた。岸には世界各国から運ばれてきたコンテナが整然と山積みされている。その

コンテナを運ぶため、無数のトラックがかもめ大橋を頻りに行き交う。橋の向こう岸には、博多港最大の心頭・箱崎心頭が広がる。2基のガントリークレーンが並び、自動車・木材・穀物・食品など幅広い貨物を取り扱う心頭だ。ここでは倉庫群に注目が集まる。

段原「倉庫がたたくさんありますね。景観のポイントになると思うんですけど、どう思いますか？ どうしても経済的なことが優先されて、デザイン的にきれいなものがないですね」

永井「そうですね。例えば色彩をもっと上手に利用すれば、コストを抑えて機能的でいいものをつくることもできると思いますけど」

出口「機能重視はもつともですけど、景観を考えた低コストでできる倉庫づくりも提案できますよね。また、ピア（棧橋）などを取り入れ、埋立地に水を引き込む工夫をしてみたらどうでしょう。心頭の景観を引き立たせると思

いますよ」  
長谷川「施設はきれいでも、使われているコンテナなどがさびていたりするからとても残念。ん、僕ももつと美しくして機能的なものを提案していくことが必要だと感じます。また、対岸に海だけでなく緑の風景が見えるのも博多港の特徴ですよ。緑の見え方を大切にしてほしいなあ。一みなど100年公園」の海の見える公園というコンセプトはいいと思いますが、あと数年でアイランドシティも完成しますし、

一つ一つながりのある景観を考えないと開散としたものになるのではないでしょうが」

船は箱崎心頭から都市高速を挟んだ入江へと向かう。今までの風景をガラリと変える砂浜と小さな赤い鳥居。博多っ子には馴染み、山笠お汐井とりのスポットだ。一瞬、親しみのある光景に巡り合えた。続いて、東浜心頭に立ち並ぶガスタックが見えてきた。マレーシアから輸入されてくるLNG（液化天然ガス）は福岡都市圏の都市ガスとして使われている。物流拠点として、エネルギー基地として、博多港は休むことなく福岡市民の暮らしを支えているのだ。



さまざまな貨物扱う博多港の中心的な心頭「箱崎心頭」には多くの倉庫が並ぶ。機能面だけでなくデザイン面も配慮した倉庫づくりは今後の課題である。



都市高速を挟んだ入江に山笠お汐井とりの赤い鳥居が佇む。